平成２３年度の学校経営計画　　各分掌の目標達成のための具体的計画と達成状況

＊下線は今年度新たな取り組み

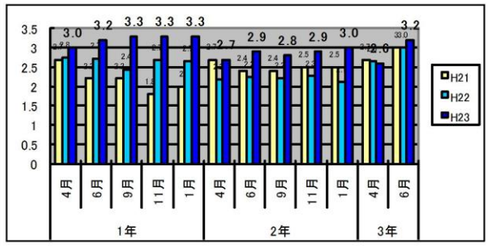
本年度の学校経営目標	担　当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中　間　評　価		年　度　末　評　価		
				取り組んだ内容と課題、中間期までにできた、できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題、できたこと、できなかったこと等	評価	評価
① 生徒の進路実現を目指した指導力･授業力の向上。 （言語活動の充実を盛り込む）	教務課	･各教科と協力し新学習指導要領の理解を図り、新教育課程における指導計画を作成する。 ･プロジェクタ研修を実施し利用方法の研究を深める。授業でのプロジェクタ活用を推進する。	･8割以上の教員が言語活動の充実について理解できる。 ･3年間の指導計画が作成できる。（数学・理科） ･プロジェクタ研修会を2回実施する。 ・３割の教員がプロジェクタを活用した授業を１回以上実践する。	・第2回の授業見学に向け、言語活動の充実についての具体的工夫を考え、まとめた ・指導計画は数学50％程度、理科は2･3年次の教育課程を詰め、今後取り組む。 ・Ｐ研修は使用方法について1回終了。2回目の内容はデジタル教科書を使用した授業の見学の予定。 ・Ｐ活用は約３割の実践。ＨＲ教室での利用が課題。	B	・2回の授業見学では、昨年度に比べ他教科の見学が飛躍的に増加。（昨年度の他教科見学：0時間36人⇒13人） 言語活動の充実の理解は、アンケートによると8割が深まったと回答。 ・指導計画は数学が完成し、理科は作成中。来年度以降の手直しは必要となる。 ・2回のＰ研修を実施した。（1回目26人、2回目21人参加） ・各教科のまとめによると４割弱の教員が授業でプロジェクタ活用した。	B	B
	進路課	･教科指導研修講座に参加して指導力を向上させる。 ・国公立個別試験の問題研究を行う。	・研修参加人数10名以上 ・岡山大学入試問題の解答・解説の冊子が作成できる。	・夏期休業中９名が教員研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑに参加した。（教科：国語３・地歴１・数学２・理科３；研修先：河合塾１・代ゼミ２・駿台６） ・各教科で岡山大学2011年度入試問題の検討を行い解答・解説の原稿ができた。	A	・１１名が教科指導研修講座に参加した。 ・岡山大学2011年度入試問題の検討を行い、解答・解説冊子を作成し、教員・HR・希望者に配布した。	A	
	総務企画課	授業力向上に向けて授業評価アンケートを活用する。①アンケート項目を再検討②５月下旬から６月上旬にかけてアンケート実施③７月集計結果配布④以後の授業に反映	・授業評価アンケートを５０％以上の教員が積極的に活用する。	6/20～7/1にかけてアンケートを実施し、９月に集計結果を個別配布した。授業評価アンケートの活用については、11月実施予定の教員の学校自己評価でみる。	B	授業アンケートの活用に対する教員の自己評価結果は、活用できたが19％、どちらかといえば活用できたが49％であった。（昨年度は活用できたが13％、どちらかといえば活用できたが53％）今年度は授業アンケートの項目等を見直したため、昨年度より若干ポイントがアップした。	B	
	文化課	学校図書館の利用促進を図るため､広報活動をさらに充実させる。また､LHR読書会や図書館交流会等を工夫する。	生徒・教職員の貸出冊数が前年度より増加する。	ＬＨＲ読書会や図書館交流会は予定通り実施できた。1年生の図書館利用が例年より少ないことが今後の課題である。	B	２・３年生及び教職員については学校図書館の利用促進を図ることができたが、１年生の利用が後半も伸びず、課題として残った。１月末までの貸出冊数は次の通りである。 昨年度（人数）　今年度（人数） １年　1578（191）　998(142) ２年　1324（163）　1828(189) ３年　2528（195）　2517(162) 教職員　598　770	B	
	国語科	現代語の単語や古文単語などの小テストを各授業において継続的に実施し、読解力･表現力の基となる語彙力を付けさせることで言語活動の充実をはかる。	小テスト回数、年間２０回以上。 小テストの合格者目安７割以上。	小テストに取り組む積極的な姿勢は見られるが、テストの難易度により、なかなか合格できない生徒もいる。語彙力をつけることの重要性を意識させる指導を今後も行う。	B	年間で小テストの実施回数は、２０回を超えた。 小テストの合格者率は、テストの難易度により時には７割に満たない学年もあったが、おおむね達成できた。積極的に語彙力をつける姿勢が身についてきた。	B	
	地歴科	言語力・思考力の育成のために、社会的事象の意味・意義を正しく解釈させ、それに基づいた自己の考えを論述する力を身に付けさせる。そのために各考査において、論述問題を出題するとともに、その内容や出題の仕方を工夫する。	各考査ごとに、工夫した論述問題を出題できる。	各考査に論述問題をとりいれ、出題はできている。しかし思うところを書けない生徒も多く、今後さらに内容や出題の方法について工夫が必要である。	B	論述問題の出題はできた。年度当初に比較して空白で提出する生徒も少なくなり、何とか記述しようという生徒も若干増えた。しかし、内容や出題についての工夫が十分ではなかった。	B	
	数学科	言語活動の充実のために､授業中の生徒の発表の機会を増やし、数学用語の解説や公式･定理の活用方法および問題の解法などを説明させることなどにより、生徒の学力の向上を図る。	進研模試の数学の平均点全国偏差値50以上。	７月記述数学の平均点全国偏差値 １年次ss50.7２年次ss54.0３年次ss49.7	A	・進模数学の平均点全国偏差値ss　（昨年） 1年次　2年次　3年次 11月　51.3(53.1)　50.9(48.8)　47.4(46.2) 1月　54.0(53.0)　51.0(49.1) ・言語活動の充実に繋がる取り組み(生徒の作問した問題を題材にした授業や多様な答えのある発問を工夫した授業など)を行った。 ・岡山大学の入試問題研究を数学科全員で行い、指導力の向上になった。	A	
	理科	実験実習に際しては､事後報告レポートの作成に先立ち､各班の結果考察についてクラス内で発表する機会を設けることで､プレゼンテーション能力の育成を図る。	１か月に１回以上、生徒に発表させる授業を実施する。	実験書の記入･提出の際に班員どうしコミュニーケーションをとらせた。また，用語などを適切に表現できるように指導をした。全ての班の実験結果を黒板に記入させ，	B	化学は頻繁に実験ができていたが，物理と生物は実験の回数が少なかった。時間数不足で授業進度に追われていることも大きい。教員対生徒	B	

<table>
<tr><td rowspan="5"></td><td></td><td></td><td></td><td>結果について議論させるようにした。</td><td></td><td>の言語活動はあるが，生徒どうしが意見を交わす場面を，授業の中でなかなか作れない。現状の授業時数では難しい目標だった。</td><td></td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>保体科</td><td>自主性を重んじる指導のなかで思考･判断の力を向上させ、個人の考えを発する機会を均一にし、自らの意見を発する力､他者の意見を聞く力を身につけさせる。</td><td>・活動の記録（個人ノート）を毎日記入させる。
全員毎日３行 以上の記録であれば　A</td><td>・ノートへの記入がＡ判定になる生徒が８０％の状況である。未提出や記入不足の生徒への指導を今後も継続的に行っていく。</td><td>B</td><td>活動の記録を記入させることで個人の授業内容の振り返りにもなり、思考力や表現力を養うことにもつながった。Ａ評価の生徒も増えている。さらに表記内容の指導を行っていきたい。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>芸術科</td><td>・名品を鑑賞し、その印象や構成、背景等を味わい発表させる。
・他者の作品の表現効果を批評しあい発表させる。</td><td>グループでの話し合い、個人発表の場を年間２回設ける。</td><td>現時点では文化祭での発表、単元での演奏発表や観賞会を各科一回程度行っている。後期では発表の場を増やしたい。</td><td>－</td><td>音楽：グループ活動の発表において、特に発表前には有意義な話し合いが行われていた。
美術：自分の作品を解説して観賞しあう機会を各単元で設けた。
書道：年度の最後に作品の批評会を行う。全体的に話し合ったり観賞して意見を述べる時間を意識的に多く設けることができた。</td><td>A</td></tr>
<tr><td>英語科</td><td>音声指導と音読指導をベースにし､各年次での適切な言語活動へと発展させるための具体的な指導法を研究する。</td><td>授業で教師が活用できる音読活動の知識が増える
模試試験等で生徒の成績が過去年度を上回る。</td><td>音読の活動は習慣的にできるようになった。言語活動についてはいろいろな実践をしながら試行錯誤中である。</td><td>B</td><td>・教材の内容，生徒の理解度に応じた適切な音読活動の利用ができるようになった。
・和訳の確認ではなく，重要表現を使った英文のプロダクションに当てるなどの工夫もした。
・２年では中位層の顕著な上昇はなかったが，60以上の人数は徐々に増えてきた（１年7月は6,今年は15→16→17）。
・１年は学力差の幅が比較的少なく，偏差値60以上の人数が徐々に増えてきた（7→10→13）。</td><td>A</td></tr>
<tr><td>家政科</td><td>・家庭科教員の授業力の向上･他科目の授業内容の理解や授業内容の連携を持たせるために､授業見学を積極的に行う。
・言語活動を視野に入れ、クラスまたはクラスを超えての発表会等を行う。</td><td>･年間で一人3回以上の授業見学を行う。
･クラス発表等が3学年とも１回以上できる。</td><td>・授業見学は、一人1回以上はできている。
・各授業の中で、言語活動を視野に入れた活動を行っているが、今年度は新たに、1～3年次生の家政科が集まっての家政科集会を12月に予定し、生徒主体の会となるよう計画中である。</td><td>B</td><td>・授業見学については、一人3回以上他科目の見学ができた者は８割だった。
・家政科集会では、3年次生が中心となり計画立案し、生徒主体の活気ある集会を行うことができた。
・クラス発表は、3学年とも1回以上はできた。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>② 学習習慣の確立</td><td>進路課</td><td>・年間を通して学習実態調査を行う。生徒が自己目標をたて、日々の学習を振り返りながら学習習慣を確立させる。教員は生徒の状態を常時把握し、適切な指導ができる。

・各教科の学習習慣の取り組み内容を把握し、教科バランスのとれた学習習慣にする。
・来年度の『進路のてびき』の発行に向け始動する。</td><td>・年間を通じて、実態の調査が行える。

・家庭学習の時間が３時間を超える。

・学年での調整役になる。

・内容及び骨格をつくり、来年度初旬に発行できる。</td><td>・４月・６月・９月に学習実態調査を実施した。（３年次は４月・６月まで）
・家庭学習時間
<table><tr><td>普通科</td><td>４月</td><td>６月</td><td>９月</td></tr><tr><td>１年次</td><td>3.0(2.8)</td><td>3.2(2.7)</td><td>3.3(2.4)</td></tr><tr><td>２年次</td><td>2.7(2.2)</td><td>2.9(2.2)</td><td>2.8(2.2)</td></tr><tr><td>３年次</td><td>2.6(2.6)</td><td>3.2(2.9)</td><td></td></tr><tr><td>家政科</td><td>４月</td><td>６月</td><td>９月</td></tr><tr><td>１年次</td><td>1.7(1.9)</td><td>1.6(1.9)</td><td>1.3(1.8)</td></tr><tr><td>２年次</td><td>1.6(1.4)</td><td>1.5(1.2)</td><td>1.7(1.2)</td></tr><tr><td>３年次</td><td>1.2(1.3)</td><td>1.2(1.8)</td><td></td></tr></table>・週末に課題一覧を作成して生徒に配布した。
・朝日・城東・一宮・西大寺・青陵・天城・古城池・笠岡・井原・津山・勝山・新見・鳥取西・倉吉東・兵庫県立小野高校から進路の手引きおよび参考資料を取り寄せた。</td><td>B</td><td>・４月・６月・９月・11月・１月に学習実態調査を実施した。（３年次は４月・６月まで）
・家庭学習時間：１年次は３．３時間，２年次は３．０ 時間で目標を達成した。
 

・年間を通じて週末に課題一覧を作成して生徒に配布した。（２年次）学年団あげて弱点教科の学習指導を行った（１年次）
・『進路のてびき』の発行に向け骨格を決めた。</td><td>A</td><td rowspan="3">B</td></tr>
<tr><td>国語科</td><td>授業の小テストに向けての取り組みの他､授業ごとの復習となる学習を課する。</td><td>定期的に宿題を課する。
課題の達成率７割以上。</td><td>提出状況は良好（率７割）だが、答を写すなど不十分なものもある。課題の内容の精選や個別指導などを今後続けていく。</td><td>B</td><td>課題の提出達成率は７割以上となった。授業の復習課題の取り組みには積極的であるが、週末課題は解答を写して提出する生徒もいたので、今後も個別指導などを続けていく。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>地歴科</td><td>基礎・基本を理解させるとともに、学習習慣の確立を図るため、隔週ごとに復習プリント（課題）を配付し取り組ませる。また，３科（国・数・英）の出題量とのバランスも考えて課題を出す。</td><td>隔週ごとに課題を出せたか。
出題量は適切であったか。</td><td>各科目とも課題は出せている。出題量も適切である。提出率の指導は今後も必要。</td><td>A</td><td>年間を通じて課題の出題はできたが、未提出者に固定化傾向があり、その手当が十分でなかった。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>数学科</td><td>学習習慣の確立に向けて､火曜日から金曜日は毎日、１・２年次生は数学毎日課題を提出させ、３年次生は予習・復習などの課題の点検を行う。また、数学週末課題を出して週明けに提出させ､週末の学習時間を確保させる。</td><td>普通科生徒の９割以上が、数学毎日課題（１・２年次生）や予習・復習などの課題（３年次生）を提出し、数学の家庭学習を毎日１時間以上確保する。</td><td>・家庭学習時間
４月　６月　９月
１年次　1.1　1.1　1.0
２年次　0.9　1.1　1.0
３年次　0.9　0.9
・１年次91%，２年次83%</td><td>A</td><td>・数学の平均家庭学習時間
４月　６月　９月　11月　１月
１年次　1.1　1.1　1.0　1.2　1.2
２年次　0.9　1.1　1.0　0.9　1.0
３年次　0.9　0.9　（ 実施せず ）

・課題提出・予習復習の状況
１年次90%、２年次80%</td><td>A</td></tr>
</table>

	理科	定期的な課題の実施と期限厳守での提出を促す。 課題の提出状況一覧表を、少なくとも週1度は提示する。	提出率90％以上･･･A 提出率75％以上･･･B 提出率75％以下･･･C	提出状況は良好（基準A）であるが，期日に遅れる者も少なくなく，期限厳守という点ではなお努力を要する。	B	提出状況は，Aが3名Bが2名。期限が守れない生徒がまだ多い。成績に反映される課題は何とか出せるが，そうでないものはやっつけ仕事になっている。目的を明確に示して，前向きに取り組ませたい。物理2,3年次，化学3年次は当日課題(5分程度)を毎日実施し，週に1度提出状況を生徒に示した。	B	
	英語科	生徒が家庭ですべき復習内容を具体的に提示し､それが反映できるような小テストを授業時に実施する。	・小テストでの合格・再提出ができる人数が増える。 ・１日１時間の家庭学習をする。	・家庭での復習を必要とする小テストを実施。事後指導も行っている。合格者数は以前より増えているものもある。また合格ではなくとも，合格に近い結果を出す者の数は増えている。 ・各年次とも概ね１時間は確保できている。	B	・（特に下位層の生徒たちについて）概ね小テストに向けて準備はできるようになったが，再提出ができない者が少数ながら一定数はいる。 ・家庭学習時間は，１年では年間を通して1時間を上回る時間を確保でき，２年でも０．９時間程度の平均時間だった	B	
	家政科	就職・進学用の問題集を例年より早く2年次生より購入させ､週末課題や長期の課題として学習習慣の確立を図る。	・問題集の活用計画を立てる。 ・課題達成率7割以上。	・就職・進学用の問題集を2年次生より購入させ、問題集の活用計画を立て週末課題や長期の課題として取り組んでいる。 ・達成率（７割）	B	・活用計画は担任が立て、計画に従って活用した。 ・長期休業中に国語と地理の分野に取り組み、課題提出率は平均８３％であった。（2年次） ・４～７月の週末課題として取り組み、7割の提出率であったが、理数科目では空欄が目立っていた。（3年次）	B	
	１年次	家庭の理解・協力を得るため、年次通信の内容を工夫する。教科担任とクラス担任との連携を密にして指導にあたる。	工夫した学年通信を５回以上発行した。教科担任とクラス担任との連携がとれ、課題の提出が良好だった。	・通信の発行はできているが、内容の工夫が必要。課題未提出者に対する連携した指導をおこなっている。	B	・年次通信の工夫は今ひとつだが、課題未提出者に対する指導は年次全体で取り組めた。学習習慣の確立は、目標時間達成には至らぬが全体としてはよい方向にある。	A	
	２年次	進路通信や年次通信の内容を工夫するとともに､生徒用と保護者用を準備し､情報が保護者に確実に発信できるようにする。	通信の内容が工夫したものになった。 保護者用を配付できた。	・保護者用の通信を発行することはできたが，内容については充分とは言えず，今後の工夫が必要である。	C	・保護者の求める情報が何であるかの把握が十分にできず，保護者にとってより良い情報を提供することができなかった。	C	
	３年次	進路通信､年次通信に学習習慣を確立するために必要な情報を適宜、掲載し、保護者の意識を高める。	通信に学習習慣を確立するような内容の情報を計３回以上掲載する。	・通信の発行はできた。学習習慣の確立を促す内容の情報を１回掲載した。	B	・７回の年次通信を発行した。学習習慣の確立を促す内容の情報は２回掲載した。	B	
③ 生徒が自主性を発揮できる行事や委員会活動の工夫。	生徒課	・委員長と執行部との面談を年4回以上行う。 ・執行部から各委員会へ活動内容を提案し、2つ以上企画を実現させる。	・面談実施回数 ・アンケート調査結果 ８７％以上A	・面談近日中に2回目実施。 ・活動について閉塞感を感じている。面談の中で考えていきたい。	B	２度の面談実施。企画達成は１。活動内容について提案を行っているが、まだ形になっていない。長い目で見ていきたい。 アンケート結果：生徒会行事の満足度は８５％	B	B
	総務企画課	･オープンスクールで生徒が主体となった場面を提供するために他校のオープンスクールを見学する。 ・「地域で育つ」視点から、部等に声かけをし、まちづくり事業（栄町）に協力する。	・一人一校見学する。 ・イベントを１０回以上実施する。	・夏季休業中に他校のオープンスクールを全員が見学し、工夫している点などまとめることができた。まちづくり事業については、現在５回実施済みである。	B	・他校のオープンスクールを全員が見学し、工夫している点などについて報告し合い、まとめることができた。 ・まちづくり事業（栄町商店街活性化事業）については、イベントを14回実施することができた。	A	
	厚生環境課	･美化に対する意識の高揚と自主的な活動を促すため､整理整頓の呼びかけ活動や美化新聞の発行をする。 ・通学路の清掃活動を行う。 ・生徒会と連携し、古紙回収活動を円滑に行う。	・毎月１回美化新聞を発行する。 ・奇数月に通学路を点検し、バス停を重点に清掃活動を行う。 ・委員会が中心となって活動計画を立てる。	・古紙回収活動は定着してきており、教員がいなくとも美化委員が自主的に活動しているクラスもある。 ・美化新聞の発行、校外の清掃活動はまだ実施できていない。	B	・古紙回収の活動は極めて円滑に行えた。但し古紙の量に対して活動回数が結果的に見て少なかった様なので、次年度はもう少し回数を増やすべきかと考える。 ・美化新聞の発行、校外の清掃活動は、予定した様には実施できていない。主な理由は日程の詰めの甘さで、家庭クラブの活動と被ったことなどである。	B	
	家政科	・家政科展において、今年度のテーマに添った発表や展示を視野に入れ､家政科展の内容の充実を図る。	・テーマに添った発表ができる。 ・アンケートにおいてテーマに添った発表展示ができた5割以上。	・家政科展の今年のテーマに添った各コースの発表ができるよう現在話し合い中である。	B	・今年のテーマ「空～届けみんなの想い～」に添った発表や展示を工夫して行い会場全体がまとまった家政科展を行うことができた。また、全員製作ではパッチワークを製作し東日本大震災の被災地に贈ることができた。	A	
	寄宿舎	・各寮内において、寮長、副寮長を中心とした「自主」「自律」の運営を活発にできるように毎週木曜日に各寮において反省会を行う。 ・寮長、副寮長と舎監長との情報交換を月１回行えるような体制を確立する。	・各寮において反省会を９割以上行うことができる。 ・寮長，副寮長と舎監長との情報交換を９割以上行うことができる。	・反省会においては，各寮長を中心に毎 週きちんと行うことができている。 ・寮長と舎監長との情報交換は９割以上はできているが，寮の情報はすべて寮長を通して行われているので副寮長との情報交換は今後の課題となる。	B	・反省会においては，各寮長を中心に毎週きちんと行うことができた。 ・寮長と舎監長との情報交換は９割以上はできた，副寮長（特に城南生の副寮長）との情報交換はできなかったので、今後の課題となる。	B	
④ 情報を共有し課題意識を持って組織的に取り組むことができる協働体制作り。	教務課	・課内分掌を見直し、仕事の集中を解消し、課員の協力体制を確立する。 ･年間業務計画の改定と新学籍システムによる成績	・年間業務計画の改訂ができる。 ・新学籍システムによる成績	・改訂部分はまだ多くない。表面に表れない部分での補足を残せるようにしたい。 ・回を追って進行している。	B	・年間業務計画の改訂はできつつある。 ・定期考査ごとに整備できつつある。システムの修正に合わせ加筆修正している。	A	

		処理のマニュアルを整備するなど業務の整理を図る。	処理マニュアルが整備される。			・定例会議で業務の確認・分担を常に行い，課内の協力体制整備をすすめることができた。		B
	生徒課	部顧問会議を定例化させる．（月1回）	・顧問会議実施回数 ・アンケート調査結果。生徒満足度80％以上A	・部顧問会議2回実施。	C	・部顧問会議の定例化をねらったが協議題もなく不発。次年度は別の取り組みを考えたい。 部活動満足度７３％	C	
	進路課	・各年次進路通信を発行し、進路情報の共有化を図り、進路指導の方向性を共通理解する。 ・定例の進路課会議を行い課題の発見と対策を検討する。学年進路主導の会議になる。	・進路通信を各学年10回発行できる。 ・週１回の会議ができる。	・１年次５号，２年次６号,３年次30号を発行した。 ・１４回の進路課会議を実施した。	B	・１月末までに、１年次８号，２年次９号，３年次４４号を発行した。 ・２４回の進路課会議を実施した。課題の発見と対策の検討まで至らず、進路関係の行事の確認作業に止まることが多かった。	B	
	総務企画課	・各係ごとの年間計画を作成し、一覧表にする。 ・定例の会議を月１回は実施し、各係の仕事を全員で確認し合う。	・年間計画一覧表が作成できる。 ・定例の会議が月１回できる。	年度始めに年間計画一覧表を作成することができた。今後は実際にどう進めていったかを一覧表にする。定例の会議は月１回実施できた。	B	・年間計画一覧表と実際の取り組み状況一覧表を作成することができた。 ・定例会議を月１回実施できた。会議で情報を共有することによって、課内の協力体制を強めることができた。	A	
	１年次団	生徒情報を主とした会議を月一回程度設定し、情報交換を行う。会議の効率化のため、資料準備等の工夫をする。	・40分を超えない程度の充実した会議が実施できる。・	・現在60分を超える程度の会議が多い。年度当初の生徒の諸問題については、学習会を含め情報の共有ができている。	C	・情報交換を主とした会議はあまり設定できなかったなかったが、必要な生徒情報の共有はできた。通常会議は60分を超えた。	B	
	２年次団	情報の共有のために、毎朝の打合わせの中で情報交換を実施する。また、年次団会議の中で、行事に関する打ち合わせを行う場合は、明確な目的を位置づけ、共通理解を図った上で実施できるように取り組む。	・毎朝の打合わせで情報交換を実施できる。 ・各行事ごとに明確な目標を設定できる。	・年次団会議における情報交換の補完として，毎朝の打ち合わせで情報交換を実施できた。 ・行事によっては，明確な目標が設定できないまま実施に至ったものもあった。	C	・毎朝の情報交換を通して，生徒の情報共有ができ，年次団会議の補完ができた。。 ・明確な目標を設定できないまま，実施に至った行事があり，十分とは言えなかった。	B	
	３年次団	年次会議を効率的に進めるために、前日までに資料を配布する。会議は１時間以内に終える。	70％以上の実現率となる。	・前日までの資料配布はできていないが、1時間以内で終えることはできている。	C	・会議時間は１時間以内に終えることができたが、前日までの資料配付はほとんど実現できなかった。	B	
	家政科	家庭科に関する様々な文書･書類の保管場所を明確にし、担当者が責任を持って敏速に且つ的確に保存し、様々な家政科主体の行事が円滑に進むようにする。	・年間を通じて家庭科に関する文書の適正な保存ができ、行事が円滑に運営できた。	・家政科に関する様々な文書・書類の保管場所を決め保存している。 ・担当者の手元にないため、不便を感じ保存も遅れる場合があった。迅速で的確に保存し、様々な家政科主体の行事が円滑に進むよう今後も工夫したい。	B	・家政科に関する様々な文書や書類を保管場所を決めて保管でき、情報の共有はできた。 ・次年度以降の参考にすることを中心として記録や保存を行うところまでは、難しかったが行事は円滑に運営できた。	B	
	事務室	事務室内朝礼の充実を図り、職員へ連絡すべき事項を洗い出し、職員朝礼で連絡及び情報提供をする。	連絡漏れを出さない。	朝礼は毎朝行っているが、一方通行になっている。職員一人一人から情報が出てくる職場作りを行う必要がある。	B	・朝礼の一方通行は解消出来ていない、また、定期的に連絡会を持つ計画も実行出来なかった。	B	